

2016.4.21

vol.47

シネマ・ド・リぶらの
コラム・ド・シネマ

映画
を
読む

本日の上映作品

花咲ける騎士道

Fanfan la Tulipe



4月21日(木)

① 10:30 ~ 12:10

② 14:00 ~ 15:40

18世紀フランスが舞台の冒険大活劇。ジェラルール・フィリップがスーパー・スターの座に駆け上った記念すべき作品。軽妙でやんちゃなヒーローを熱演したフィリップは、以後“ファンファン”という愛称で世界中から愛された。1952年カンヌ国際映画祭監督賞。

監督：クリスチャン＝ジャック

脚本：クリスチャン＝ジャック
アンリ・ジャンソン

出演：ジェラルール・フィリップ
ジーナ・ロロブリジータ
ノエル・ロクベール

製作：1952年フランス/イタリア モノクロ

上映時間：100分 日本公開：1953年

上映予定(毎回木曜日)

- | | | |
|------|--------|-----------------|
| 第48回 | 5月19日 | 『椿姫』 |
| 第49回 | 6月16日 | 『明日へのチケット』 |
| 第50回 | 8月4日 | 『シェーン』 |
| 第51回 | 9月15日 | 『スプレンドール』 |
| 第52回 | 10月27日 | 『マダム・イン・ニューヨーク』 |
| 第53回 | 12月15日 | 『素晴らしき哉、人生』 |
| 第54回 | 1月19日 | 『ジェニイの家』 |
| 第55回 | 2月16日 | 『会議は踊る』 |

『シェーン』と『マダム・イン・ニューヨーク』は図書館では所蔵していませんが、上映作品の選択肢を広げるため、劇場上映用のDVDをレンタルします。上映時には関連の図書の紹介をしますので、ご利用下さい。

『マダム・イン・ニューヨーク』は、男女共同参画班との共催となります。また次年度は、上映前に福祉関係のご案内もさせていただきます。合わせて、映画を見る機会に視野を広げていただけたらと思います。

※ 上映作品は変更になる場合があります。

※ 第3木曜日に限りませんのでご注意ください。

映画を読む

『花咲ける騎士道』

「ジェラルール・フィリップの愛称＝ファンファン」は何故？ K.M.

錦通東新町の中部電力ビル東に、「名演小劇場」というレトロな雰囲気のミニシアターがあります。私が偶然この場所を知ったのは十年以上前のある朝のことです。朝刊の片隅に「ジェラルール・フィリップ生誕 80 年記念映画祭／明日開幕」という記事を見つけ、「随分昔の映画を上映するんだなー！」と上映作品を見ていくと、私が 50 年近く前に観て、機会があればもう一度観たいと思いながら機会がなく、そのこと自体すっかり忘れていたジェラルール・フィリップが主演の作品が含まれているのに気が付きました。「上映場所は？」と探すと、そこが「名演小劇場」だったのでした。

その作品がかかると早速「名演小劇場」に出掛けました。エレベーターもないこじんまりとしたビルの 3 階にある客席が 100 席位の小さな劇場で、「昔の映画」を見て、ひとり往時の思い出にひたるには、なかなかの雰囲気の処でした。客席はほぼ満席で 8 割方は 60 才～70 才？と思いきご婦人方でした。きっと彼女達、1959 年に 36 歳で亡くなったジェラルール・フィリップのファンだったのでしょう。半世紀前の青春をいとおしむかのようにひっそりと見入っていました。この時、私が受けた「青春時代に劇場で観た懐かしい映画を、もう一度ホールで観ることはとても素晴らしいことだ」という強い印象が、「シネマ・ド・リぶら」上映会開設への重要な動機付けとなっています。

さて、そのジェラルール・フィリップがスーパースターの座に駆け上がるきっかけとなった今回上映作品『花咲ける騎士道』、原題を直訳すると「ファンファン・チューリップ」という人名になります。実はこの映画、1952 年にクリスチャン・ジャック監督が「ファンファン・チューリップ」という古いフランス民謡をベースにロマンスやアクションなどを織り込み、ジェラルール・フィリップが画面狭しと大活躍する一大活劇映画に仕立て上げたものなのです。

このもとになった民謡は「ファンファン・チューリップ」という呼び名の少年が、父親から背中を押されて修行の旅に出ているいろいろな体験をし、やがて王様の兵隊になるという一種の出世物語を歌にしたもので、18 世紀の半ば

に流行し、今でもフランスでは人気のある曲だそうです。18 世紀の半ば頃のフランスはルイ 15 世の時代で、対オーストリア戦争やヨーロッパ中を敵に回した七年戦争など、年がら年中戦争をしていたので、「ファンファン・チューリップ」のような少年の武勇伝が人気となり、それが民謡にもなったのでしょう。因みにこの民謡の歌詞は壺齋散人（引地博信）氏のウェブサイト「フランス民謡の世界 (<http://chanson.hix05.com/>)」に収録されています。

この作品は、よく練られたストーリーがテンポよく展開し、チョッピリ強引ながらハッピーエンドで終わる、いわばフランス版のチャンバラ劇です。生き生きとしたジェラルール・フィリップの大活躍ぶりが最大の見どころですが、その他にも見どころをあげれば、

- ・「その昔、フランスという国があった・・・」で始まるすつとぼけたオープニングのナレーション。
- ・「国王様大事なお願ひがあります」「国家の危機に関わることか？」「いえ、愛に関わることです」・・・など、何となく小粋な会話の数々。
- ・フィリップの相手役として偽ジプシー娘に扮したジーナ・ロロブリジーダのグラマー振り。この作品で一躍有名になった彼女は、翌年にはハリウッドデビューを果たし、世界的な人気を博します。日本にも 1960～1970 年代にかけて数回来日して、「スターキーン夜」や「小川宏ショー」に出演しています。



『フランス映画史の誘惑』	中条 省平／著	集英社新書	1778.2
『ザ一秒四文字の決断 セリフから覗くフランス』	山崎 剛太郎／著	春秋社	N 778.2
『名作はあなたを一生幸せにする』	淀川 長治／著	近代映画社	N 778.0
『字幕の名工 秘田余四郎とフランス映画』	高三 啓輔／著	白水社	778.09
『アシネマディクト』の映画散歩 フランス編』	植草 甚一／著	晶文社	778.2
『ジェラルール・フィリップ』	ジェラルール・ボナル／著	筑摩書房	778.235
『映画 100 年 STORY まるかじり フランス篇 フランス映画快作 220 本』		朝日新聞社	778.2
『ヨーロッパを知る 50 の映画』	狩野 良規／著	国書刊行会	778.23
『フランス騎士道』 中世フランスにおける騎士道理念の慣行	シドニー・ペインター／著	松柏社	156.9
『西洋騎士道大全』 図説	アンドレア・ホプキンズ／著	東洋書林	230.4

インフォメーション

邦画に字幕は必要でしょうか？

りぶらサポータークラブ事務局長 小竹央朗

「シネマ・ド・りぶら」で皆さんがご覧になる洋画には字幕がついていますね。洋画に字幕が付くことに不思議を感じることはないと思います。英語・フランス語・イタリア語などが理解できなくても、字幕を付けることによってどんな映画でも楽しむことができます。もしも何もなかったらどうですか？ 無音の動画を意味も分からず見ることになるでしょう。

実は邦画でも、似たような経験をされている方たちがいます。耳の聞こえない方にとっては、邦画でも無音の動画を見ることとそれほど違いはないのです。何を言っているかわからないという感覚は、皆さんが洋画を字幕なしで見る感覚から想像していただけるのではないのでしょうか？

「邦画に字幕は必要か？」という問いかけの意味を分かっていただけかもしれません。それでも、DVDになれば字幕付きも発売されているからいいのではないかとと思われるかもしれませんが。確かに字幕がついているものも増えてきました。でもそれは、ホームシアターとしてしか楽しめません。映画館でも字幕付きを上映してくれることもあります。本数も上映期間も限られてしまっているのが現状です。

耳の聞こえない方というと、聴覚障害者のことで自分には関係ない。と思われる方も少なくないようですが、実はごく身近なことで、高齢などで耳が遠くなるなど、家族やご自分にも決して縁遠い話ではないのです。映画好きの方なら、映画館で好きな映画を大画面で、友達と一緒にポップコーンを食べながら観たい、と思われるように、聴覚障害者の中にも、映画が大好きで、同じように楽しく映画を観たいと思っている方たちがいることを知っていただけたらと思います。そこで、「新世紀岡崎 100 事業」として採択された「岡崎映画字幕祭 ～バリアフリーな岡崎を目指して～」を紹介します。是非一緒に上映会を楽しんで下さい。

岡崎映画字幕祭

～バリアフリーな岡崎を目指して～

2016/9/24(土)10時～17時40分

やはぎかんホール

主催：あいち補聴器センター

インフォメーション

【プログラム】

10:10 映画 『ミニオンズ』

12:00 デフフットサル女子日本代表トークショー

13:30 映画 『レインツリーの国』

15:30 デフフットサル女子日本代表トークショー

16:00 映画 『フラガール』

17:30 終了挨拶

第3会議室では、耳マーク・補聴器等の展示・体験・活動紹介を開催します。

※プログラムは変更する場合があります

【映画紹介】

『ミニオンズ』

人類より遙か以前から誕生していた黄色い生物ミニオンは、その時代で最も強いボスに仕えるという習性をもっていた。しかし、いつも失敗ばかりで長続きせず、やがて仕えるボスがいなくなってしまう。生きる目的を失い、一族に滅亡の危機が迫るなか、兄貴肌のケビン、バナナのことで頭がいっぱいのスチュアート、そして弱虫のボブが新たな最強のボスを探す旅に出る。やがて世界中から悪党の集まる大悪党祭りの会場にたどり着いた

3人は、そこで世界初の女悪党スカーレット・オーバークイルに出会う。

『レインツリーの国』

あるブログの管理人をする女性とメールをやりとりするようになった男性が、会うことをかたくなに拒む彼女の思わぬ秘密を知る。主演は玉森裕太、西内まりやがヒロインを演じる。

『フラガール』

時代の波で閉鎖に追い込まれた炭坑の村で、危機的な状況の中、人々はツルハシを捨て、北国の寒村を“常夏の楽園”に変えようと立ち上がった。村の少女たちは腰みのをつけ、肌もあらわにハワイアンムード満点のフラダンスを踊りはじめるのだが……。

「デフフットサル」について

デフフットサルのプレイヤーは、聴覚に障害を持つ方々です。また認知度の低さから、合宿活動や世界大会渡航費、ユニフォームや練習着など、ほとんどの活動資金を選手やスタッフの自己負担で賄っています。

『雨の朝パリに死す』感想

- ・テレビで若草物語は見ましたが、エリザベス・テイラーの映画は初めて観ました。きれいですね。二人のスレチガイに心がいたみました。
- ・とても良かったです。若い時～ステキ（テラーさん）また行きますよー。
- ・とても感動したラストシーンでした。自分の思いは素直に現した方がいいね。
- ・いつもラストシーンでジーンとします。
- ・題名から、戦争映画かと思っていましたが、映像もきれいで感動しました。ありがとうございます。
- ・時々理解のできる英語もあって、とてもよい作品をありがとうございました。
- ・懐かしい映画、楽しく観れました。また、このような機会をもうけていただきたいと思います。
- ・古きよき時代のいい心温まる映画でした。
- ・愛のはかなさを感じました。

サロン・ド・シネマ

ホールホワイエにて

寄付金でお茶菓子を提供します。
映画の上映前にご利用ください。

午後の部の上映終了後に、2階の活動コーナーにおきましてスタッフの打合せをしています。上映会の運営に関心のある方は、お気軽にご参加下さい。

賛助サポーターへのご案内

賛助サポーターは、年度更新となります。総会のご案内と共に更新のご案内を同封いたしますので、よろしくお願いいたします。なお、ご寄付は随時受け付けておりますので、スタッフにお申し出ください。